

LEADERS
File, 01AGRICULTURE
× VENTURE農業ベンチャーとして
サツマイモで
世界一を目指す代表取締役社長
な ら そ こ よ う す け
奈良迫 洋介独自ブランドの
サツマイモの生産・加工・販売株式会社
くしまアオイファーム

DATA

所在地/串間市大字奈留 6564-12
設立/2013年12月
直近売上高/21.7億円(2023年7月期)
従業員/110名(2024年1月時点)

WEBSITE▶



RECRUIT

採用情報ウェブサイトはこちら



「サツマイモの可能性を広げるのが私の仕事です」。日に焼けた顔で快活に語るのは株式会社くしまアオイファーム代表取締役社長の奈良迫洋介。2020年、創業者で現・会長を務める池田誠から2代目として社の経営を任された。サツマイモ生産・輸出のトップを走る同社の根幹を支えるものとは何か。

Interview

衰退する地元の農業。
農家の地位・所得向上を目指し、
改革に乗り出す

株式会社くしまアオイファームは宮崎県串間市に本社を構える農業生産法人だ。串間市大東地区はサツマイモの一大生産地。最盛期で700ヘクタールほどの畑が広がっていたが、人口減少、就農者の高齢化に伴い現在では300ヘクタールを下回る。^①くしまアオイファーム創業者・池田誠もこの地でサツマイモ農家を営んでいたが、衰退していく農業と過疎化の進む地元で「新しいことに挑戦しない限り産地の存続が危うい」と危機を感じ、さまざまな改革に乗り出した。自ら営業を行い市場を開拓するとともに、^②サツマイモの独自ブランド化に着手する

PICK UP

-1
創業者・池田 誠(左)

既存の農業界のあり方を変えていくため自ら先頭に立ち改革を実施。力強い理念やビジョンを打ち出し会社を率いた。

-2
独自でブランディングした
多品種のサツマイモ-3
トレーサビリティを支える
管理体制のDX化

製品の出入庫情報を管理する自社システム「KSK」を導入。情報の全てを一元化することで業務効率化を図っている。



ほか、海外出荷も実現。2013年に法人化して以降、業績を伸ばし続け2023年7月期の売上は21.7億円となった。

自社生産のほか契約農家との連携、貯蔵庫・出荷場の整備により高品質かつ多品種なサツマイモを多量に取り扱うことができ周年出荷も可能。貯蔵設備の総収容量は約3,500トンに及ぶほか日量20トンもの出荷を可能とするなど^④安定的な供給体制を整えている。

可能性を否定しない。
強い農業をつくるため
自分たちに何ができるか

「弊社には可能性を否定しない文化がある」と語る代表取締役社長の奈良迫自身、その言葉を体現している人物だ。奈良迫は元々サツマイモ輸出に関わる商社マンだった。「芋づくりのプロになりたい」と2016年1月くしまアオイファームへ入社。「農業といえどベンチャー企業なので何でもやりました」と当時を振り返る。

2018年、世代交代を考えていた池田の発案により行われた^⑤「社長内定総選挙」によって、いち社員だった奈良迫が次期代表に選ばれた。「実力はない、運だけです」と謙遜するが拡大する組織を着実に

-4
可能性を広げる
ユニークな試み

総選挙のほか「農SURFING 農LIFE」を謳ったサーファー採用を行うなど既存の形式に囚われない人材登用・採用を行っている。

-5
現地の食習慣に
チャンスを見出す

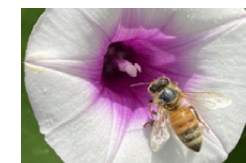
香港やシンガポールでは小ぶりのサツマイモを炊飯器で蒸して食べる習慣がある。そこに着目し海外輸出への商機を見出した。



▲本来なら廃棄となる手のひらサイズの小手。

-6
サツマイモの
蜜源植物としての可能性

蜂蜜の国内自給率は約5%と低く、国内需要が期待できる。スイーツや美容品など多種多様な製品展開が可能。



に束ねている。代表の世代交代が象徴するように同社では若い就農者人口の獲得に力を入れている。スタッフの平均年齢は約35歳と、国内農業者の平均年齢が65歳を超えるなかでは異例だ。異業種からの転職も相次ぎ、多様な人材が集まっている。「農家さんのために何ができるか常に自分たちのバリューを問われる環境です。部署の枠を払って動くこともあります」。

世界一のサツマイモ企業を目指し
時代、世代、世界を越え、
人々を肥やす

「強い農業はこえていく」。その経営理念のもと歩みを止めることはない。化学肥料を減らし環境や生態系に配慮した栽培法を取るほか、^⑥東南アジアでの小芋ニーズを汲み、販路を開拓したことで食品ロス削減。「弊社は何かで1番になることを常に目指しています。本来はロスになる小さな芋を集めるのは農家からすると面倒でもある。しかし、そこに商機があるのならチャンスは逃さない」と奈良迫は語る。

将来への取組として、農業人材育成のため熟練農家のノウハウ継承や地元の学校を対象にした教育・食育活動も行う。2018年10月には宮崎大学農学部との共同研究講座「MTALab」を設立。その成果として^⑦サツマイモの花から蜂蜜を採取するなど新事業が動き出している。また2023年12月には、沖縄県に子会社「おきなワアオイファーム」が設立され海外への出荷をより強める動きだ。「地域農業は現状維持すら難しい状況にあります。会長の志を受け継いで農業者の地位や所得を向上させていくのが私の役目です」。「世界一のサツマイモ企業」を目指すくしまアオイファームの挑戦はとどまるところを知らない。

